

令和4年度養豚経営安定対策補完事業

養豚経営における優良事例調査

I 調査の概要

1. 調査先の名称 有限会社クボタピッグファーム(代表取締役 窪田 陽平氏)
2. 調査先の所在地 三重県鈴鹿市石薬師町 1189-9
3. 調査日 令和5年3月14日
4. 同行者
委員：橋本 晋栄(岩手県)、細川 拓也(秋田県)、小川 哲生(長野県)、
山本 孝徳(愛知県)、石渕 大和(熊本県) (敬称略)

今年度の検討会にて豚熱及び新型コロナウイルス感染拡大の影響が未だ続くことから、今年も通常の優良事例調査の実施は困難との意見が挙げられた。そこで、令和3年度に続き今年度も検討会委員の農場にて調査を実施することとした。三重県の窪田委員が数年前に農場拡大したことから実際に農場を見学。

実際に農場外観及び直売所を見学し、窪田委員から農場概要、規模拡大までの経緯や労務環境、今後の展望について説明を受け、意見交換会を実施した。

II 調査の内容

<農場概要>

繁殖農場 三重県四日市市水沢野田町 1454

肥育農場 三重県鈴鹿市下大久保町 1311

直売所 三重県鈴鹿市石薬師町 1189-9

・三重県の養豚農家の特徴の一つに、農場経営だけでなく直売所を持っている農家が多いことが挙げられる。クボタピッグファームでも直売所がありブランド豚、「心からありが豚」を生産している。

・自社のブランド豚の他に、三重県中部～北部にある養豚農家の2代目・3代目を中心に集まった仲間と「ええやんさくらポーク」というブランド豚も生産している。この若手養豚農家の集まりは通称四P会といい、ブランド豚生産だけでなく勉強会等を通じて地域の活性化を目指している。

・元々は鈴鹿市で一貫経営をしていたが、農場規模拡大にあたり四日市市に農場

を新設しツースイトとした。

・直売所の裏には平成 24 年に改築した離れがあり、新型コロナウイルス流行前には自社ブランド豚を用いた料理教室を開催していた。今回は窪田委員のご厚意で意見交換会の場として提供していただいた。

<農場規模拡大の経緯>

- ・ 2010 年～2016 年 母豚 180 頭から 370 頭へ増頭
- ・ 2018 年 農場 HACCP 認証取得
- ・ 2019 年 JGAP 認証取得
- ・ 2021 年 3 月 新繁殖農場稼働、2 サイト運営を開始
- ・ 2021 年 9 月 種付けベースで母豚 370 頭から 700 頭へ増頭開始
- ・ 2022 年 2 月 肥育農場新豚舎稼働

<従業員・労働環境>

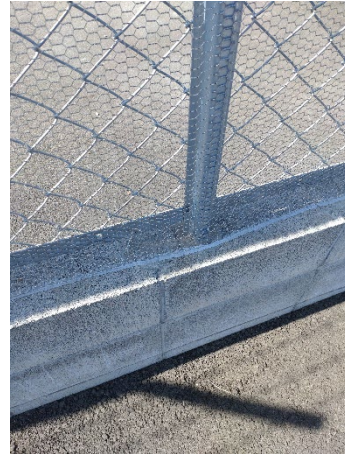
- ・繁殖農場は社員 5 名 (20 代)、肥育農場は社員 4 名、パート 1 名 (20 代 1 名、30 代 2 名、50 代 1 名)。
- ・完全週休 2 日制で毎週 2 連休取得。
- ・年間休日は 107 日。
- ・有給休暇は 2015 年から全社員が 100%取得し、有給休暇を利用して年に 3 回 5～7 連休を取得できるようにしている。
- ・残業時間は 2021 年度実績で一人当たり平均 2.5 時間/月。
- ・上記からも労務環境に非常に力を入れており委員からも関心が寄せられた。窪田氏からも女性が多い職場なので制度は整えているとのこと。
- ・女性が多い職場なので、事務所はトイレだけでなく入り口から男女別になっており、入ってすぐにシャワーインできるよう設計されている。

<今後の展望>

- ・ 1 年以内のスリーセブンを目標としている。
- ・今のところ今後の増頭予定はなく、地元の若手生産者グループ販売している「ええやんさくらポーク」の販売を強化していく予定。



上：四日市市の繁殖農場。
手前の黒い屋根が事務所、後方の緑の屋根が豚舎。



右上：害獣対策のフェンス。

右下：フェンス上部にある、ネズミの侵入防止有刺プレート。



左上：鈴鹿市の肥育農場。



右上：出荷台。年間出荷頭数は2万頭。

右：出荷トラック。
右下の緑色のマークは HACCP と JGAP のロゴマーク。左下にはグループで生産している「ええやんさくらポーク」のロゴマーク。





左上：直売所入り口の看板。
現在は月に2回の営業。



右上：意見交換会の様子。
直売所裏にある離れにて実施。

右：調査委員と窪田氏（左から2番目）。
直売所の玄関にて撮影。

